東京交通新聞

東京交通新聞社
〒160－0022
東京都新宿区新宿2－13－10
電話（代）03・3352・2181
編集　03・3352・2182
出版　03・3352・2183
販売　03・3352・2184
広告　03・3352・2185
ファクス　03・3352・2186
編集発行人　仁平 英紀
振替口座東京00110－7－52616
©東京交通新聞社 2023

バス・タク女性営業所長が活躍

バス・タクシー業界で女性の営業所長が登場し、職場や運行の現場に活気をもたらしている。東都観光バス（東京・新宿区、宮本剛宏社長）では、大学新卒で入社したての中村怜菜さんが大抜てきされた。東京タクシーグループ（世田谷区、岡田従容社長）は、他社で運行管理や経理の経験があった近藤絵美さんを起用した。男性社会の中で、ともに円滑なコミュニケーションを築くなど成果を上げている。日々奮闘する二人に、業務での心がけや将来の夢を聞いた。

東都観光バス
中村 怜菜さん

東京タクシーG
近藤 絵美さん

居心地の良い環境作りたい

東京タクシーグループで今年5月から、東京タクシー城北（足立区）と新光タクシー（同）の二つの営業所の所長を務めているのが、近藤絵美さん（48）だ。「この業界は福利厚生があまりない。乗務員は個室で仕事をし、いろいろストレスがある。皆さんとコミュニケーションを取りながら、営業から帰ってきて居心地の良い環境を作りたい」と抱負を語る。

埼玉県熊谷市出身。税理士事務所や銀行での勤務を経て2008年、新規参入タクシー会社の大陸運輸（足立区）に就職した。経理担当だったが、資格好きで、すぐに運行管理者資格を取得した。18年4月に大陸運輸が廃業したとき、岡田社長と出会ったという。東京タクシーグループに入った後は、衛生管理者の資格も取り、総務と労務を担う立場に。前所長の急な退職により、白羽の矢が立った。勤務時間は平日午前8時～午後5時。ごみや危険物が落ちていないか、構内を点検することから始まり、点呼の立ち会いと乗務員の見送りをした後、売り上げや点呼簿を確認する。午後は新人の面接や健康診断書の整理、企業の配車予約管理などをこなす日々。

「くぎなどは落ちていないかな」。タクシーが並ぶ営業所構内を見て回る近藤さん（7月24日、東京・足立区）

「高校2年の娘に格好いいと言われ、うれしかったけど、『肩書だけで何もできていないのでは。皆さんに申し訳ない』と心配が続いている。胸を張って仕事ができるよう、経験を積みたい」

一方、「女性だから気づくことも多いはず」と、まずは、点呼場の掲示物が見やすいように整えた。熱中症防止に、乗務員に塩あめを配っている。今後の人材採用を考慮し、休憩室のレイアウトの変更も考えている。

目下、メンタルヘルス関係の資格の取得に向け、勉強中だ。「乗務員へのカスタマーハラスメント（顧客・利用者からの嫌がらせ）が後を絶たない。心をケアし、痛みに寄り添えればと思う。私のほうが乗務員から優しい言葉をかけてもらったり、体の心配をしてもらったりして助けられている」と話す。

岡田社長は、「集会で乗務員に『彼女が作る営業所に協力してほしい』と呼びかけたら、みんながこぞって乗務員の候補者を連れてくるほど。彼女は人気があり、私も応援している。前向きで、書類一つとっても几帳面さが分かる。コンプライアンス（法令順守）の時代。所長にふさわしいし、一つの通過点に過ぎない」と期待をかける。

一人一人との会話を大事に

東都観光バス・東京首都営業所（板橋区）の所長、中村怜菜さんは、大学新卒で入社し、2年目の23歳だ。気を配るのは、ドライバーの健康管理や相談しやすい雰囲気作り。「乗務員の悩みや課題をくみ取り、運転に集中できる環境を整えたい」と意気込む。

昨年3月に就任した宮本剛宏社長（宮本克彦会長・前社長の長男）が、業務改革の一環で若手の登用を推進している。昨春、大学新卒者5人を採用し、半年ほど経過した11月に3人の女性を営業所長に充てた。中村さんは首都圏1都3県の5営業所中、最大の営業所を任された。運転者45人、バスガイド16人、管理者6人、整備士4人の計71人の組織。配置車両は55台で、保有台数全207台の4分の1を占める。

「『会社を大きくするため、新卒採用を始めた。改革のタイミングは今。君たちが第一人者になる』。面接で社長からそう話を伺い、希望を感じた。一員として働きたいと思った」と中村さん。出身地は埼玉県川口市。「東都のバスで修学旅行に行ったことも縁を感じた」と話す。

宮本社長からはまた、「ここは変えられるとか、こういう古いしきたりはどうなのかとかあれば、すぐに声を上げて」「営業所内は事務所対乗務員という構図が作られがち。女性のほうが柔らかく、壁ができにくい」との助言があったようだ。

主な業務は、乗務員、事務員の勤務シフトの作成や運行管理、現金管理、面談など。健康管理について、「健康診断で悪い結果が出た人にヒアリングし、病院や薬の服用を確認して記録している。これまでは、あいまいな部分があった」と披露する。

ドライバーと笑顔で談笑する中村さん（左）。打ち解けた雰囲気が漂う（8日、東京・板橋区）

「皆さんに助けていただきながら、仕事をしている。いろいろな知識や道路、地方の観光地のことも勉強したい。将来、エリアマネージャーというポジションができたら、チャレンジしたい」と意欲を燃やす。

一人一人との会話を大事にしている。「60人の乗務員・ガイドがいて、私にとっては1対60。必要な連絡が抜け、説明が不十分だったことがあった。皆さんは1対1の関係を求めている。だんだんと、『腰痛がきつく、3泊の仕事は外して』みたいな相談を気軽にしてくれるようになった」

勤続18年の男性ドライバーは「所長は一生懸命やっている。営業所の空気が変わり、以前より気楽に話せるようになった」とうれしそうに語る。